

厚生労働科学研究費補助金  
 (政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))  
 分担研究報告書

ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究  
 「ICD と ICF の連結によって生成される情報の活用方法の検討」

研究分担者	大冢賀政昭	(国立保健医療科学院)
研究分担者	高橋秀人	(帝京平成大学)
研究協力者	山口佳小里	(国立保健医療科学院)
研究協力者	重田史絵	(立教大学)

研究要旨

ICD-11 において、2001 年 5 月に WHO 総会で採択された国際生活機能分類 (ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health) を基にした生活機能評価に関する補助セクション V (V. Supplementary section for functioning assessment 以下、v 章) が新設された。これは、WHO が作成した国際分類である WHO 国際分類ファミリー (WHO-FIC:WHO-family of international classification) の連動性を高めるとともに、疾病と合わせて生活機能の評価する重要性が強調されたともいえる。

すでに ICD については、統計法に基づく統計基準として定められ、公的統計 (人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別調査等)・診療報酬明細書、電子カルテ、DPC (診断群分類・包括評価) 等における死因・疾病分類として広く利用されているが、ICF についても ICD-11 改訂を契機にさらなる活用が期待されている。とりわけ、より質の高いサービス提供や費用対効果の検証に向けたデータヘルス改革が進められる中、医療・介護・福祉領域における公的データベースの整備が進められつつあり、これらへの適用を視野に入れた ICD-11 (v 章) によって生成される情報の活用方法の検討が求められている。

本研究においては、ICD-11 に導入された v 章の国内における活用を検討するにあたり、コードの構成やこれを用いた近年の研究実施状況を整理し、公的データベースにおける ICD-11 の疾病情報と v 章にかかわる生活機能情報の該当有無の確認を行った。

研究の結果、既存情報を活用した ICF 情報のリコードとしては FIM をはじめとしていくつかのツールでなされており、リンキングルールを活用した定性的検討と、2つのツールを同時に調査した結果に基づく定量的検討の2つがなされている。公的データベースについては、複数データベースの連結によって、ICD-11 の疾病情報と v 章にかかわる生活機能情報を連結できる可能性があるが、データ加工の容易さを踏まえると、単独データベースでの情報生成の検討が第一に求められる。このためには、疾病情報が収載されるデータベースにおいて、生活機能に変換可能な既存ツールを特定し、このツールの v 章やこれを構成する WHO-DAS へのリコード法の開発を進める必要が示唆された。

## A. 研究目的

WHO が、2018 年 6 月に公表した国際疾病分類の第 11 回改訂版（以下、ICD-11）は現在国内適用にむけた取り組みが進められている。この ICD-11 において、2001 年 5 月に WHO 総会で採択された ICF を基にした生活機能評価に関する補助セクション V（v 章）が新設された。これは、WHO が作成した国際分類である WHO 国際分類ファミリー（WHO-FIC）の連動性を高めるとともに、疾病と合わせて生活機能の評価する重要性が強調されたともいえる。

すでに ICD については、統計法に基づく統計基準として定められ、公的統計（人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別調査等）・診療報酬明細書、電子カルテ、DPC（診断群分類・包括評価）等における死因・疾病分類として広く利用されているが、ICF についても ICD-11 改訂を契機にさらなる活用が期待されている。

とりわけ、より質の高いサービス提供や費用対効果の検証に向けたデータヘルス改革が進められる中、医療・介護・福祉領域における公的データベースの整備が進められつつあり、これらデータベースへの適用を視野に入れた ICF を含む ICD-11 によって生成される情報の活用方法の検討が求められている。

本研究においては、ICD と ICF の連結によって生成される情報の活用方法の検討をするにあたり、v 章コードの構成を確認したうえで、ICF を活用した情報整理に関する近年の研究実施状況を整理し、公的データベースにおける ICD-11 の疾病情報と v 章にかかわる生活機能情報の該当有無の確認を行なった。

## B. 研究方法

v 章のコードの構成について、公表資料をもとに、WHO-DAS2.0(WHO Disability Assessment Schedule2.0)とモデル障害調査、ICF 一般セットとの対応関係を整理した。

v 章のコードの活用について、ICF を活用した既存情報のマッピングやリコードにかかわる研究について 2018 年以降の成果を整理した。

公的データベースのうち、DPC DB、障害福祉 DB、介護 DB の 3 つを取り上げ、疾病に関連する情報、生活機能に関連する情報の該当有無について、整理を行った。

## C. 研究結果

### 1) ICD-11 v 章のコードの構成について

表 1 に v 章の項目と WHO-DAS、MDS、ICF 一般セット（30 項目）との対応関係を示した。いずれにも該当しない項目は 3 項目あった（これら 3 項目については、ICF 付録 9 由来の項目）。

### 2) v 章のコードのリコードに関連する 2018 年以降の主な研究のレビュー

v 章のコードの活用に向け、「ICD、ICF、LINK」「ICD、ICF、LINKING」「FIM、ICF、LINKING」を検索語として、pubmed を用いて 2018 年以降の文献を検索した概要を表 2 にまとめた。

### 3) 公的データベースにおける疾病に関連する情報、生活機能に関連する情報の有無

DPC DB、介護 DB、障害福祉 DB における疾病に関連する情報（ICD10 コードまたは傷病名コード）、生活機能に関連する情報の該当有無を表 3 に示した。

## D. 考察

### 1) v 章による生活機能情報の活用の視点

v 章を構成するコードは、WHO-DAS2.

0(WHO Disability Assessment Schedule2.0)とモデル障害調査、ICF 一般セットとの対応関係を整理した。v章は、WHODAS2.0、モデル障害調査(MDS)簡易版、および一般的な機能領域で構成されている。一般的な機能領域は、以前に開発されたICF一般セットと、医療環境の普遍的な機能を記述するために必要な19の追加項目で構成されている。この3つのスケールのうち、モデル障害調査については項目が少ないかつ構成概念の妥当性も検証されていないため、WHO-DAS2.0かICF一般セットのいずれかを活用していく方向性が考えられる。

このうち、ICF一般セットは、疾患別の生活機能を把握するためのICFコアセットの一つに位置付けられる。ICFの項目の中から特定の疾患や健康状態に対して、実地調査や先行文献のシステムティックレビュー、そして構造化された専門家からの意見聴取のプロセスを通じて選定される。国際的に30以上ものコアセットが開発され、疾患横断的に広く適応できるコアセットとして、一般セットは当初リハビリテーション患者対象として開発され、その後一般セットと名称が変更されている。国内では、この他に自閉症や重度知的障害のコアセットが開発されている。

一方、WHO-DAS2.0は臨床実践や集団レベルでの測定に適した障害の包括的な尺度として開発されたツールである。36項目版と12項目版があり、6つの領域別のスコアが示される。WHODAS2.0についてのシステムティックレビュー<sup>1</sup>では810件の研究が特定されている。ICFコアセットは

さまざまな疾患に応じてICF項目を用いた評価が可能になる一方で、領域別・包括的なスコアが出る点にWHODAS2.0の強みがある。

これらを踏まえると、v章の活用として、ICF一般セットやWHODAS2.0を活用していくことが考えられる。とりわけ、項目別の評価情報に加え、ある程度のまとまった領域の生活機能を捉えていくためには、スコア情報を算出できるWHODAS2.0の活用が有用と考えられる。今後は、これら既存の評価スケールのWHO-DAS2.0へのリコード法の検討が求められるものと考えられた。

## 2) ICFを活用した既存情報整理の国際的な取り組みからの示唆

今回の先行研究レビューにおいても示されたように、既存情報を活用したICF情報のリコードとしてはFIMをはじめとして、いくつかのツールでなされており、リンクルールを活用した定性的検討と、2つのツールを同時に調査した結果に基づく定量的検討の2つがなされている。

リコードを行う場合、個別項目の評価と評価ツールによって算出されるスコアの大きく2つの変換が考えられるが、後者についてのv章情報を既存の評価ツールから生成する場合には、先行研究で実施されているツールで国内のデータベースに適用されているものを前提とするとFIMやBarthelの活用が考えられた。

## 3) 3つの公的データベースにおけるICD-11とv章の連結情報の生成について

介護DB、障害福祉DB、DPCDBの3つの公的データベースについては、DPCDBや介護DBのLIFEを除き、疾病に関連する情報が必須の入力情報として格納されていないことがICD-11とv章を連結し

<sup>1</sup> Federici, S., Bracalenti, M., et al. (2017). World Health Organization disability assessment schedule 2.0: An international systematic review. *Disability and Rehabilitation*, 39(23), 2347-2380.

て活用していくことの課題である。

新しく提供されることになった LIFE のうち、情報を活用して、国レベルのデータベースを活用して、ICD-11 と v 章を連結した分析を実施していくことが期待される。LIFE にはさまざまな情報が格納されるが、疾病データが入力される様式として科学的介護推進体制加算(科学的介護推進に関する評価)、個別機能訓練加算(個別機能訓練計画書)、リハビリマネジメント加算(リハビリテーション計画書)、自立支援促進加算・(自立支援促進に関する評価・支援計画書)となっている。

このうち、科学的介護推進体制加算と自立支援促進加算については Barthel Index が含まれ、これについてはすでに v 章項目との対応表が示されている<sup>2</sup>。

Barthel Index を v 章や WHO-DAS に変換することで、生活機能に係る情報を表現することが可能となり、ICD-11 と v 章の連結情報を生成することが可能となる。

この実現には Barthel Index と WHO-DAS2.0 を共に評価した調査を実施し、点数換算式を作成することが求められる。なお、FIM については向野ら<sup>3</sup>が日本人サンプルを使って ICF 一般セットとの変換式を開発し、FIM の ICF 一般セットの個別項目の対応についても近年発表されている<sup>4</sup>。

<sup>2</sup> 社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会 生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ 生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ成果報告書 2021

<sup>3</sup> 向野雅彦, 山田深, 大冢賀政昭, 出江伸一. ICF の評点の再転用ガイドの作成、検証およびフィールドテストの実施. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「ICD-11 に新たに導入された生活機能評価に関する補助セッション「V 章」の活用および普及に向けた研究」2021 : 28-51

<sup>4</sup> Umemori, S., Ogawa, M., Yamada, S., et al. (2024). Development of a Conversion Table to Link Clinical Scale Scores to ICF Qualifiers:

加えて、DPC DB には疾病に関連する情報が格納されていることから、入退院時の ADL スコア(様式1)の v 章への変換も、ICD-11 と v 章を連結した情報の生成に有効と考えられた。

## E. 結論

研究の結果、既存情報を活用した v 章(ICF)のレコードとしては FIM をはじめとしていくつかのツールでなされており、リンキングルールを活用した定性的検討と、2つのツールを同時に調査した結果に基づく定量的検討の2つがなされている。公的データベースについては、複数データベースの連結によって、ICD-11 の疾病情報と v 章にかかわる生活機能情報を連結できる可能性があるが、データ加工の容易さを踏まえると、単独データベースでの情報生成の検討が第一に求められる。このためには、疾病情報が記載されるデータベースにおいて、生活機能に変換可能な既存ツールを特定し、このツールの v 章やこれを構成する WHO-DAS2.0 へのレコード法の開発を進める必要が示唆された。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Insights from a Survey of Healthcare Professionals.

